

2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	今瀬政司
最終学歴	学位	専門分野
法政大学経営学部経営学科	学士	経営・経済・社会・政治学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

- 1.人が幸せになる学びと教育
- 2.夢や希望を描けるような「学び」を得られる教育
- 3.「何のために、誰のために行うのか」を常に自問自答

【目標】

学生の自発力・自主性・自律性を大事にして、学生が自らの成長を実感でき、自らに自信が持てるように努めるとともに、学生の歩みが立ち往生したり、道に迷ったりした際のセーフティネットを常に張って教育を行う。

【方針】

なぜそれを「学ぶ」必要があるのか、その「学び」は何の役に立つのか、学ぶことで自分と誰が幸せになるのか、そういった「学ぶ目的（意義）」を学生が自ら持つことからの教育を行う。また、学生が学びによる「成長」を自ら実感できて客観的にも評価されるような教育、学びの総合力である「成長」が現在に生き、将来の人生に生きるような教育を行う。

【計画（方法）】

担当科目として、地域振興論、非営利組織論、地域コミュニティ論 a・b、地域ビジネス特講Ⅱ・Ⅲ、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、総合演習Ⅰ・Ⅱ、専門演習Ⅲ・Ⅳを実施する。授業の基本姿勢として、将来の就職活動や企業・団体・行政機関に勤める上で実際に役立つ知識・ノウハウとスキル（「生きる力」「働く力」）の基礎を身につけ「成長する」こと、自らに「自信を持てる」ようになることを目標として授業の計画・方法に努める。学生がいつでも気軽に講義、進路、生活、社会・地域活動等の悩みを相談できるような雰囲気作りを行い、できる限り時間を取り、じっくり対応する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

地域振興論、地域コミュニティ論 a、地域ビジネス特講Ⅱ、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

非営利組織論、地域コミュニティ論 b、地域ビジネス特講Ⅲ、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

◇地域振興論、非営利組織論、地域コミュニティ論 a・b、地域ビジネス特講Ⅱ・Ⅲ

・2019年4月に本学着任以来6年間、本学の毎年異なる一人一人の学生の特性やニーズ、および

教育環境等に合わせて、教育方法を前任校での方法から大幅に変えると共に、毎年、課題点を一つ一つ解決して工夫・改善に取り組むことで、学生の成長度合いが高まる傾向になっている。

- ・大学教育の基本に則って、各回 90 分間の授業中の学びを大事にした。毎回授業で数十枚の詳細な講義スライドを示した上で、学生が口頭説明を耳でしっかり聴いて理解しながらメモを取るように繰り返し勧めて授業を行った。
- ・毎回授業後のレポート課題において、自分なりに整理・要約して、自ら深い探究や考察を行いながら論述して、自身の言葉で文章に表現して伝える能力と習慣を身につけるように工夫した。レポート執筆で著作権を侵害しないことの重要性も併せて説明した。
- ・毎回授業後に日々地道に復習する習慣づくりを行い、理解して学んだ知識・ノウハウを吸収・消化し自分のものにして、頭にしっかり残しながら、将来の仕事や生活で生かせるようにすることを大事にした。
- ・第 1 回授業において、全 15 回授業の目的・進め方・到達目標・各回概要、出欠席の扱い、ならびに各回授業&期末総括レポート課題（趣旨・内容・文字数・提出期限・注意事項等、成績評価の方法・基準・配点等）について、具体的・詳細に説明を行い、学生との事前共有を行った。学生が目的やスケジュール感を持つようにして、学習意欲を高め、学生と教員間の意識のずれ違いを少なくしていった。

◇専門演習Ⅲ・Ⅳ（4年生ゼミ）

- ・演習テーマ「社会的課題の解決と地域づくり」のもと、専門的知識・ノウハウの学習を行いながら、ゼミ生自らが希望する具体的な課題テーマや事例等を対象にして、学外の地域の人たち（行政・他大学・NPO・企業・住民等）と交流・連携しながら調査研究や実践活動を行って、その成果を卒業論文として執筆した。
- ・大学 4 年間の「学生かつ研究者」としての集大成である「卒業論文（学士論文）」（15,000 字超）について、一連の学習・研究の到達目標と作業工程スケジュールをあらかじめ学生に提示して、共有・理解を得て、一緒に目標を持って取り組んだ。到達目標とスケジュール感を持って、地道に少しずつ学習、課題、研究を行うリズムを作り、全ての受講者が成果を出すことに努めた。
- ・専門演習Ⅰ・Ⅱ（3年生）で作成した卒業論文（中間 8,000 字超）をベースに、4 年生前期に卒業論文（初稿フルペーパー 11 稿 15,000 字超（6 月 24 日迄）／初稿プレゼン版スライド 5 稿 20 枚超（7 月 8 日迄）／初稿概要版スライド・ポンチ絵 2 稿 1～2 枚（7 月 22 日迄））を執筆した。4 年生後期に推敲・補正・校正した卒業論文（最終稿フルペーパー 15 稿 15,000 字超／プレゼン版スライド 6 稿 20 枚超／概要版スライド・ポンチ絵 3 稿 1～2 枚（各 12 月 23 日迄））を執筆して完成させた。卒業論文等の執筆では、著作権を侵害しないノウハウを併せて学習した。
- ・「今瀬政司ゼミナール卒業論文集」（全ゼミ生、全 92 頁）を 12 月 23 日に印刷・製本して発行した。卒業論文の調査研究・執筆の協力者（沖縄県庁、沖縄大学、ヒアリング協力者等）に対して、ゼミ生から卒業論文集を謹呈した。
- ・専門学習や卒業論文等の執筆過程では、随時、繰り返して成果発表（スライド型プレゼンテーション、会議型発表、面接型発表、対話型発表等）ならびにディスカッションを行った。
- ・様々な学習・課題を通じて、就職活動の知識・スキル（企業・団体・行政機関（公務員））や実践的なビジネススキル（表現する力、受け止める力、協働する力等）を身につけていった。
- ・卒業論文の調査研究・執筆に当たっては、沖縄県庁、沖縄大学、ヒアリング協力者等と研究交流を行った。
 - ・沖縄大学の緒方客員教授による特別講義（5 月 21 日、オンライン）
 - ・卒業論文の研究・執筆に係る沖縄大学研究連携活動と沖縄フィールドリサーチ等（11 月 17

～19日、沖縄訪問)

- ・「沖縄大学と愛知東邦大学今瀬ゼミの研究連携プロジェクト」(11月19日、沖縄大学キャンパス訪問)
- ・愛知県内在住の沖縄出身者へのヒアリング調査(11～12月)
- ・ゼミ生たちの自主企画として、平和公園フィールドリサーチ(名古屋市千種区)を行い、レポート「平和公園における迷惑駐車の実態と公園使用用途」(プレゼン版スライド)を発表した(6月11日)。
- ・前期・後期とも、学習計画等や自己評価等のレポート作成を行うと共に、随時、授業、卒業論文・レポート、進路・就職活動、生活、社会活動等について、個別面談指導を行った。
- ・愛知東邦大学ホームページ「NEWS & INFORMATION」や Facebook でもゼミ生の成果を発表した。
「経営学部で沖縄大学の緒方客員教授による特別講義」(5月24日)
<https://www.aichi-toho.ac.jp/archives/49707>
「今瀬ゼミ生たちが卒論執筆で沖縄大と研究連携活動」(12月6日)
<https://www.aichi-toho.ac.jp/archives/52158>

◇総合演習Ⅰ・Ⅱ(2年生ゼミ)

- ・演習テーマ「人を大切にしながら成長する経営」のもと、前期はテキストをもとに基礎学習と具体的な企業の定性分析、後期は具体的な企業の定量データ分析の知識・ノウハウを主に学習するとともに、各ゼミ生自らが興味のある企業を取り上げて経営分析レポート作成等を行った。レポート執筆では、著作権を侵害しないノウハウを併せて学習した。前期・後期を通して、スライド型プレゼンテーション、会議型発表、面接型発表、ならびにディスカッションの練習を行った。
- ・授業の基本姿勢として、将来の就職活動や企業・団体・行政機関に勤める上で実際に役立つ知識・ノウハウとスキル(生きる力、働く力)の基礎を身につけて「成長すること、自らに「自信を持てる」ようになることを目標とした。企業経営の本質的な姿を定性的かつ定量的に分析して見抜く知識・ノウハウを実践的に学習するとともに、実務的なビジネススキル(表現する力、受け止める力、協働する力等)を身につけるように努めた。
- ・企業現場への訪問による学外学習(事例研究)として、日本最大級の異業種交流展示会「メッセナゴヤ2024」に参加して出展企業の取材と研究発表を行った。ゼミ生たちは、スーツを着て企業の日常的な仕事の現場を訪れて、実社会の働く現場の空気を全身で新鮮に感じながら、多種多様な業種の出展企業の社員に直接取材して研究を行った。取材で得た情報をもとに、企業の研究・経営分析レポート(各3社)を作成して、ゼミ内発表会で研究発表を行うと共に、面接型発表の練習を行った。効果として、実践的な経営分析ノウハウを身につけるとともに、自らの将来の進路・就職活動等に対する取組み姿勢を高めるきっかけとした。
- ・愛知東邦大学ホームページ「NEWS & INFORMATION」や Facebook でもゼミ生の成果を報告した。
「経営学部ゼミ生が異業種交流展示会「メッセナゴヤ2024」で企業研究」(11月28日)
<https://www.aichi-toho.ac.jp/archives/52099>

◇基礎演習Ⅰ・Ⅱ(1年生ゼミ)

- ・前期は、各回で全クラス共通の学習とレポート課題を主に行った。その過程で随時、発表プレゼンテーションやディスカッションを行いながら、実践的なビジネススキル(表現する力、受け止める力、協働する力等)を身につけていった。

- ・後期は、研究論文としてのレポート構成（要旨、研究の背景・目的、内容、方法、結果、考察・展望、引用・参考文献）と執筆ノウハウの基礎を学習した。その上で、社会や地域で問題・課題の解決が必要なテーマをそれぞれ自由に設定して調査研究を行い、「課題解決型レポート」（論文）を執筆して、発表プレゼンテーション&ディスカッションを行った。レポート執筆では、著作権を侵害しないノウハウを併せて学習した。
- ・「課題解決型レポート」執筆では、学習・研究の作業工程スケジュールをゼミ生に早期に提示し、共有・理解を得た上で、フルペーパー（中間 1,500 字超）を 10 月 28 日迄に執筆、要旨ポスターを「大学祭」（11/9-10）に出展、フルペーパー（4,000 字超、初稿）を 11 月 19 日迄に執筆、要旨スライド（10 枚程度）を 12 月 2 日迄に執筆、フルペーパーと要旨スライド（4,000 字超、推敲版・最終稿）を 12 月 16 日迄に執筆・完成、ゼミ内発表会を 11 月～12 月に行った。

○作成した教科書・教材

- ・一般科目（地域振興論、非営利組織論、地域コミュニティ論 a・b、地域ビジネス特講Ⅱ・Ⅲ）の全 15 回の毎回授業でスライド数十枚を作成して講義で活用した。
- ・総合演習Ⅰ・Ⅱ、専門演習Ⅲ・Ⅳでは、本学今瀬政司研究室ホームページ（http://sicnpo.jp/imase-aichi_toho/）に各ゼミ専用ホームページを開設して、ゼミ生たちの学習・研究・実践活動・卒業論文等の成果を掲載して情報発信を行った（就職活動でのゼミ生の実績 PR 等にも役立てられるようにした）。また、掲載した成果情報を活用して、各演習内のゼミ生同士、あるいは学年を越えた演習ゼミ生間の学び合いや相互刺激を図った。

http://sicnpo.jp/imase-aichi_toho/imase_seminar2024_4senmon.html

http://sicnpo.jp/imase-aichi_toho/imase_seminar2024_sougou.html

○自己評価

- ・各学生の特性・ニーズ等に合わせて教育方法の工夫・改善を繰り返すことによって、年々、学生の成長度合いが高まる傾向になっている。
- ・一般科目では半期 15 回、演習（ゼミ）科目では 1～2 年間の間において、学生たち一人一人が授業の開講時から閉講時を比べると、それぞれに成長する姿を見ることができた。
- ・特に、専門演習（3・4 年生の 2 年間）のゼミ生たち、あるいは総合演習（2 年生）から専門演習で継続受講したゼミ生たちは、卒業論文・レポート執筆、発表・ディスカッション、フィールドリサーチ、学外の地域の人たちとの交流・連携、ゼミ生間での共同作業等を通じて、特に成長度合いが高く、著しく大きく成長した。

II 研究活動

○研究課題

次代の社会・経済構造の再構築に係る研究

○目標・計画

【目標】

国内外各地域における様々な社会・経済問題が危機的に深刻化する中、災害・感染症拡大・国際紛争等を克服する社会・経済構造の構築、自律内発型の経済産業構造の構築、各セクター間（企業・行政・NPO）の協働推進、自治権に基づく地域創生、人が幸せになるための学びと教育創生、国際・民際連携の推進等といった様々な「社会・経済構造の再構築」が求められている。

【計画】

そこで、幾つかのケーススタディ（例：沖縄の基地問題・地域経済振興・公契約改革等に係る調査研究、能登半島地震の災害と応援活動に係る調査研究、地域が必要とする大学・学校の創生に係る調査研究、離島振興策に係る調査研究等）を行いながら、次代に適した社会・経済構造の再構築のあり方とその具体的方策を調査研究して提案する。これまでの研究成果を踏まえた発展的研究として、文献調査・実地調査等を実施するとともに、地域活性学会等の諸学会や NPO・企業・行政等の研究者・実務家等とも連携するなどして研究内容を深めていく。

○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- Editors : Irene Bernhard, Urban Grasjo & Charlie Karlsson, "*Unlocking Regional Innovation and Entrepreneurship The Potential for Increasing Capacities (New Horizons in Regional Science series)*", Edward Elgar Publishing, Jun 8 2021, ISBN : 9781800371231, Pages:368, 価格 : 110 ポンド / 165 ドル
Masashi Imase, "Businessization and collaboration of the citizen/non-profit sector in Japan", pp.270-296 (国際出版社、学術共著書籍、単著論文、英文、査読あり)
- Editors : Irene Bernhard, Urban Grasjo & Charlie Karlsson, "*Diversity, Innovation And Clusters: Spatial Perspectives (New Horizons in Regional Science series)*", Edward Elgar Publishing, May 19 2020, ISBN : 9781789902570, Pages:288, 価格 : 95 ポンド / 145 ドル
Masashi Imase, "As an Element of the Regional Innovation Cluster, the Citizen/Non-Profit Sector that Fulfill the "Seedbed Function" of the New Industry", pp.186-206 (国際出版社、学術共著書籍、単著論文、英文、査読あり)
- 橋本行史編著『地方創生 -新たなモデルを目指して-』(株)創成社、2020年3月10日、今瀬政司「第8章 希望を切り拓く次代の地域創生」pp.186-217、ISBN:978-4-7944-3206-3 (学術共著書籍、単著論文)
- Editor: Irene Bernhard, "*Uddevalla Symposium 2019: Unlocking the Potential of Regions Through Entrepreneurship and Innovation (Revised papers first presented at the 22nd Uddevalla Symposium, 27-29 June, 2019, L' Aquila, Italy)*", University West, School of Business, Economics and IT, SE-461 86 Trollhattan, Sweden, December 2019, ISBN : 978-91-88847-40-9, ISSN : 2002-6188, E-ISSN : 2002-6196
Masashi Imase, ""Collaboration" with Company and Government by Citizen/Non-Profit Sector Important for Regional Innovation and Creation of New Industries", pp.217-234 (共著書籍・国際学会論文集、単著論文、英文、査読あり)
- Editor: Iréne Bernhard, "*Uddevalla Symposium 2018: Diversity, Innovation, Entrepreneurship - Regional, Urban, National and International Perspectives (Revised papers presented at the 21st Uddevalla Symposium, 14-16 June, 2018, Lulea, Sweden)*", University West, School of Business, Economics and IT, SE-461 86 Trollhattan, Sweden, January 2019, ISBN:978-91-87531-11-9, ISSN:2002-6188
Masashi Imase, "As an element of the regional innovation cluster, the citizen/non-profit sector that fulfil the "seedbed function" of the new industry", pp.207-223 (共著書籍・国際学会論文集、単著論文、英文、査読あり)
- Editor: Iréne Bernhard, "*Uddevalla Symposium 2017: Innovation, Entrepreneurship and Industrial Dynamics in Internationalized Regional Economies (Revised papers first presented at the 20th*

Uddevalla Symposium, 15-17 June, 2017, Trollhattan, Sweden), University West, School of Business, Economics and IT, SE-461 86 Trollhattan, Sweden, January 2018, ISBN:978-91-87531-61-3

Masashi Imase, "Regional factors in which geographical concentration of new industries and mature industries is created - Comparative of Tsubame city & Sanjo city's metal processing industry and Okinawa prefecture's traditional craft industry -", pp.309-326 (共著書籍・国際学会論文集、単著論文、英文、査読あり)

(学術論文)

(学会発表)

- ・今瀬政司「2024年能登半島地震の復旧・復興と支援活動」地域活性学会『第16回研究大会』名古屋市立大学、2024年9月7日、一般研究発表Dセッション(『挑戦のエコシステム 地域活性学会 第16回研究大会 in 愛知県名古屋市 研究発表予稿集』全435頁、ISSN 1884-0612、pp.371-374 (単著))
- ・今瀬政司「災害における離島と半島の危機管理」地域活性学会『第16回研究大会』名古屋市立大学、2024年9月8日、離島振興部会セッション『離島における危機管理マネジメントのあり方』(『挑戦のエコシステム 地域活性学会 第16回研究大会 in 愛知県名古屋市 研究発表予稿集』全435頁、ISSN 1884-0612、pp.22)
- ・今瀬政司「沖縄の域内経済循環促進に向けた公契約改革の現状」地域活性学会『第15回研究大会』芸術文化観光専門職大学、2023年9月2日、Eセッション(『第15回研究大会発表予稿集』全394頁、ISSN:1884-0612、pp.86-89 (単著))
- ・今瀬政司「沖縄の米軍基地問題と自律循環型地域経済システム構築」地域活性学会『第14回研究大会』関東学院大学、2022年9月11日(『第14回研究大会発表予稿集』ISSN:1884-0612、pp.110-113 (単著))
- ・今瀬政司「協働による地域づくりの成功要因と波及課題」地域活性学会『第13回研究大会』オンライン、2021年9月12日(『第13回研究大会論文集』P.108-111 (単著))
- ・今瀬政司「コロナ禍での次代の地域創生」地域活性学会『第12回研究大会』オンライン、2020年9月13日(『第12回研究大会論文集』P.144-147 (単著))
- ・今瀬政司「"Collaboration" with company and government by citizen / non-profit sector important for regional innovation and creation of new industries (Revised)」地域活性学会『第11回研究大会』長崎県大村市コミュニティセンター、2019年9月15日(『第11回研究大会論文集』(単著))
- ・今瀬政司「市民公益ビジネスによる地域創生」地域活性学会『第11回研究大会』長崎県大村市コミュニティセンター、2019年9月14日(『第11回研究大会論文集』P.21-24 (単著))
- ・Masashi Imase, ""Collaboration" with company and government by citizen / non-profit sector important for regional innovation and creation of new industries", 22st Uddevalla Symposium 2019 (国際学会), Gran Sasso Science Institute (GSSI), Viale F. Crispi, 7 67100 L'Aquila, Italy, 2019年6月29日 (単著)
- ・今瀬政司「地域イノベーションクラスターの投入資源と新産業の創出プロセス」京都経済短期大学経営・情報学会『2018年度経営・情報学会研究報告会』同大学、2019年3月19日 (単著)
- ・今瀬政司「ツチノコ共和国建国30周年と下北山村の村づくり」地域活性学会『第10回研究大会』拓殖大学文京キャンパス、2018年9月16日(『第10回研究大会論文集』P.343~344 (単著))

- ・今瀬政司「Citizen / non-profit sector fulfilling "seedbed function" of new industry - Input resources of regional innovation clusters and the creation process of new industries - (Revised)」地域活性学会『第 10 回研究大会』拓殖大学文京キャンパス、2018 年 9 月 15 日 (『第 10 回研究大会論文集』(単著))
- ・今瀬政司「沖縄米軍基地問題と国策下の地域政策」地域活性学会『第 10 回研究大会』拓殖大学文京キャンパス、2018 年 9 月 15 日 (『第 10 回研究大会論文集』P.45~48 (単著))
- ・Masashi Imase, "As an element of the regional innovation cluster, the citizen / non-profit sector that fulfill the "seedbed function" of the new industry ", *21st Uddevalla Symposium 2018* (国際学会) , Lulea University of Technology, 971 87 Lulea, Sweden、2018 年 6 月 14 日 (単著)
- ・今瀬政司「災害時相互支援とリスクマネジメント」京都経済短期大学経営・情報学会『2017 年度経営・情報学会研究報告会』同大学、2018 年 3 月 13 日 (単著)
- ・今瀬政司「Regional factors in which geographical concentration of new industries and mature industries is created - Comparative of Tsubame city & Sanjo city's metal processing industry and Okinawa prefecture's traditional craft industry - (Revised)」地域活性学会『第 9 回研究大会』島根県立大学、2017 年 9 月 3 日 (『第 9 回研究大会論文集』P.515~516 (単著))
- ・今瀬政司「離島振興に係る研究報告」地域活性学会『第 9 回研究大会、離島振興部会』島根県立大学、2017 年 9 月 3 日 (単著)
- ・今瀬政司「NPO 等の災害時相互支援とリスクマネジメントの推進 -NPO 等リスクマネジメントに係るアンケート調査報告-」地域活性学会『第 9 回研究大会』島根県立大学、2017 年 9 月 2 日 (『第 9 回研究大会論文集』P.254~257 (単著))
- ・Masashi Imase, "Regional factors in which geographical concentration of new industries and mature industries is created - Comparative of Tsubame city & Sanjo city's metal processing industry and Okinawa prefecture's traditional craft industry -", *20th Uddevalla Symposium 2017* (国際学会) , University West, Trollhattan, Sweden,2017 年 6 月 16 日 (単著)

(特許)

(その他)

- ・今瀬政司「教えない教育、自ら学び育つ教育力」法政大学地域研究センター【紀要】『地域イノベーション 2024 vol.17』2025 年 3 月発行、ISSN-1883-3934、pp.114-115 (単著)
- ・今瀬政司「大学等と地域の"連携力"の創生」NPO 法人市民活動情報センター『第 5 回教育創生フォーラム -大学等と地域の"連携力"の創生-』Zoom ウェビナー、2025 年 3 月 2 日
- ・今瀬政司「地域活性シンポジウム「若者・新人・挑戦者を支える仕掛け×行動×志」」地域活性学会『第 16 回研究大会』名古屋市立大学、2024 年 9 月 8 日、ファシリテーター (『挑戦のエコシステム 地域活性学会 第 16 回研究大会 in 愛知県名古屋市 研究発表予稿集』全 435 頁、ISSN 1884-0612、pp.15-18)
- ・今瀬政司「フィールドリサーチ」地域活性学会『第 16 回研究大会』名古屋市立大学、2024 年 9 月 9 日、ファシリテーター (『挑戦のエコシステム 地域活性学会 第 16 回研究大会 in 愛知県名古屋市 研究発表予稿集』全 435 頁、ISSN 1884-0612、pp.19)
- ・今瀬政司「地域が必要とする大学・学校の創生」NPO 法人市民活動情報センター、地域活性学会東海支部『第 4 回教育創生フォーラム -地域が必要とする大学・学校の創生-』Zoom ウェビナー、2024 年 3 月 2 日
- ・今瀬政司「コロナ禍の経験から学ぶ次代の離島振興」地域活性学会『第 15 回研究大会』芸術文

化観光専門職大学、2023年9月3日、離島振興部会セッション、ファシリテーター（『第15回研究大会発表予稿集』全394頁、ISSN:1884-0612、pp.13）

- ・今瀬政司「人が育み、仕事を育み、地域を育む売木村・愛知東邦大学学び合い協働事業」NPO法人市民活動情報センター『第3回教育創生フォーラム-人が育み、仕事を育み、地域を育む学び合いと協働-』Zoom ウェビナー、2023年2月23日
- ・今瀬政司「地域での学びと教育の創生 -「教育創生フォーラム」の議論と問題提起-」地域活性学会『東海支部月例 Lunchon セミナー』Zoom、2023年2月15日
- ・「特集 地方創生のいま、地域を元気に！ 第59回 ～地域の暮らしを支える仕組みと人づくり～ 「今瀬政司 愛知東邦大学経営学部准教授に聞く」 郵便局は社会貢献とビジネスの両立が基本 ハイブリット型（複合型）経営で人をつなぐ」一般社団法人通信研究会 『月刊誌 通信「耀」』2022年7月号（P.11～15）、2022年7月1日
- ・今瀬政司「人が幸せになる大学の創生をめざして」市民活動情報センター『第2回教育創生フォーラム -人が幸せになる大学の創生をめざして-』Zoom、2022年2月26日
- ・今瀬政司「世のため・人のためになる人財育成-坂本会長ら議論「第2回教育創生フォーラム」-」人を大切にする経営学会『人を大切にする経営学会メルマガ第361号』2022年1月17日（単著）
- ・今瀬政司「人が幸せになる学びと教育・各界人材育成の創生をめざして」市民活動情報センター『教育創生フォーラム -人が幸せになる学びと教育の創生をめざして-』Zoom、2020年10月31日
- ・今瀬政司「シンポジウム報告「愛知東邦大学地域創造研究所シンポジウム 真の「働き方改革」とは何か-人を大切にする経営を考える-」愛知東邦大学地域創造研究所『所報25号』2020年3月（単著）
- ・今瀬政司「人を大切にする経営と働き方のための人材育成」人を大切にする経営学会『人を大切にする経営学会メルマガ第263号』2020年2月3日（単著）
- ・今瀬政司「研究発表Lセッション」地域活性学会『第11回研究大会』長崎県大村市コミュニティセンター、2019年9月14日、座長
- ・今瀬政司「復興をめざす歴史的建造物のまちイタリア「ラクイラ」」公益社団法人奈良まちづくりセンター『町家くん通信2019年9月号』2019年9月、P.1-2（単著）
- ・地域活性学会10周年記念誌編集委員会（今瀬政司、白石史郎、御園慎一郎、鶴飼宏成）『地域活性の時代 -地域活性学会10周年記念誌-』地域活性学会、全176頁、2019年3月31日（共著）
- ・今瀬政司「NPO法20周年とNPOの社会的存在意義」公益社団法人奈良まちづくりセンター『町家くん通信2019年1月号』2019年1月、P.1-2（単著）
- ・今瀬政司「地域活性Sセッション」地域活性学会『第9回研究大会』島根県立大学、2017年9月3日、座長

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

- ・地域活性学会（「離島振興部会」部会長・部会事務局長、「東海支部」副支部長、「研究推進委員会」委員、「地域活性学会第16回研究大会実行委員会」副実行委員長、学会誌編集委員会「論文サポート・スクエア」論文アドバイザー、元理事）
- ・日本離島研究会（幹事）

- ・日本 NPO 学会（会員・元理事）
- ・人を大切にする経営学会（会員）

○自己評価

- ・論文投稿（法政大学地域研究センター紀要「地域イノベーション 2024 vol.17」）、学会発表（地域活性学会「第 16 回研究大会」）、その他発表（「第 5 回教育創生フォーラム」）等の成果を得た。
- ・コロナ禍の制約が緩和されてきた中、期初の研究目標・計画は一定程度達成できたが、今後、沖縄の基地問題・地域経済振興等、自治と協働による地域づくり、地域と共生する大学等の創生、離島振興、災害と支援活動等に係る調査研究等を継続して、次年度も更なる研究成果を目指したい。

III 大学運営

○目標・計画

【目標】

本学の教育・研究・社会貢献・事務等の大学運営全般に係る仕組み・計画・進め方等を踏まえて担当学務等を適切に実施する。

【計画】

担当学務として、地域・産学連携センター副センター長、地域・産学連携センター運営委員会副委員長、入学試験監督、高大連携授業、教育懇談会個人面談、東邦高校入試監督などを担う。

○学内委員等

地域・産学連携センター副センター長、地域・産学連携センター運営委員会副委員長

○自己評価

- ・地域と連携した授業・活動報告会、地域創造研究所シンポジウム「地域が教室」、グランパスビジネスコンテスト、入学試験監督（各日程）、高大連携授業、教育懇談会個人面談、新入生ガイダンス、東邦高校入試監督等を担うことで、大学運営の一端に貢献することができた。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】

国内外の様々な分野・地域において、行政・NPO・企業・大学・学会等との連携を図りながら社会・地域貢献の取組みを継続的に行っていく。

【計画】

「第 5 回教育創生フォーラム」や「災害と応援活動の情報ホームページ」等（本学今瀬研究室協力）に取り組む。地域活性学会（「地域活性学会第 16 回研究大会」実行委員会副委員長、「離島振興部会」部会長、「東海支部」副支部長等）、日本 NPO 学会、人を大切にする経営学会等で学会活動を行う。他大学（法政大学大学院政策創造研究科兼任講師、法政大学地域研究センター客員研究員、奈良国立大学機構奈良カレッジズ連携推進センターメンター等）での研究・教育を行う。諸団体の役員・委員等を務める（NPO 法人市民活動情報センター代表理事、公益社団法人奈良まちづくりセンター理事、瀬戸市「瀬戸まちの課題解決応援補助金審査会」審査員、等）。

○学会活動等

◇地域活性学会

- ・「離島振興部会」部会長・部会事務局長、「東海支部」副支部長、「研究推進委員会」委員、学会誌編集委員会「論文サポート・スクエア」論文アドバイザーとして学会活動を行った。
- ・「地域活性学会第16回研究大会実行委員会」副実行委員長として、第16回研究大会（名古屋市立大学、2024年9月7～9日）の企画・運営全般を担った。

（過去に、理事（任期満了退任）、広報・交流委員会副委員長、10周年記念誌編集委員会編集長、将来像構想特別委員会委員、研究推進委員会委員、研究大会実行委員会実行委員（第8回・第11回）、地域活性学会研究誌「地域活性研究」査読者等を担っている。）

◇日本 NPO 学会

- ・会員として学会活動を行った。

（過去に、理事（3期任期満了退任）、選挙管理委員会委員、学会会則ワーキンググループ委員、第15回年次大会運営委員会委員、震災特別プロジェクト「東日本大震災における民間支援の軌跡と動向調査」運営委員会幹事等を担っている。）

◇日本離島研究会

- ・幹事（情報担当）として研究活動を行った。
- ・福岡県・佐賀県離島研究会で現地調査（2024年11月29日～12月1日）等を行った。
- ・新年東京研究会（2025年2月25日）等で研究誌発行や神津島創生サロン等の検討を行った。

◇人を大切にする経営学会

- ・会員として学会活動を行った。

◇その他

- ・「沖縄の基地問題と地域経済振興等に係る調査研究」沖縄県各市町村現地調査（2024年9月11～13日、11月17～19日、3月11～13日）

○地域連携・社会貢献等

◇他大学での研究・教育

- ・法政大学地域研究センター 客員研究員（紀要『地域イノベーション 2024 vol.17』執筆）
- ・法政大学大学院政策創造研究科 兼任講師（担当科目：「非営利組織特論」）
- ・奈良国立大学機構 奈良カレッジズ連携推進センター「「学生×まち・企業」未来共創支援事業」メンター

◇委員・役員等

- ・瀬戸市「瀬戸まちの課題解決応援補助金審査会」審査員
- ・特定非営利活動法人市民活動情報センター 代表理事
- ・公益社団法人奈良まちづくりセンター 理事
- ・京都府「災害時連携 NPO 等ネットワーク」理事・実行委員
- ・一般社団法人大阪公共サービス政策センター 理事
- ・特定非営利活動法人ボランティアネイバーズ 評議員
- ・「民間 NPO 支援センター・将来を展望する会」（通称：CEO 会議）メンバー

◇本学後援「第5回教育創生フォーラム-大学等と地域の"連携力"の創生-」企画・運営全般

- ・開催日：2025年3月2日 Zoom ウェビナー開催
- ・録画ビデオと講演資料の公開期間：2025年3月6日～5月31日
<http://sicnpo.jp/forum250302/>
<https://youtu.be/qSsvkJjolqU>
- ・主催：NPO 法人市民活動情報センター、後援：文部科学省、総務省、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県、名古屋市、一般社団法人人を大切にする経営学会、地域活性学会東海支部、愛知東邦大学
- ・登壇者：今瀬政司、高見英樹（文部科学省高等教育局企画官（併）高等教育政策室長）、田中マキ子（山口県立大学副理事長・学長、公立大学協会副会長）、前田茂人（総務省地域力創造グループ地域政策課理事官）、濱中香理（海士町郷づくり特命担当課長、海士町教育委員会共有課長）、吉岡慎一（市民活動情報センター副代表理事、地域循環共生社会連携協会事業部長）
- ・地域活性化と人材育成で必要とされながら具現化が難しい「大学等と地域の"連携する力"の創生」をテーマに議論した。

◇本学後援「第4回教育創生フォーラム -地域が必要とする大学・学校の創生-」企画・運営全般

- ・録画ビデオと講演資料等の公開期間：2024年3月19日～5月31日
- ・参加・視聴者数：548名（開催日：2024年3月2日 Zoom ウェビナー開催）
<http://sicnpo.jp/forum240302/>
<https://youtu.be/CltBMCaXtZ4>
- ・主催：市民活動情報センター、共催：地域活性学会東海支部、後援：文部科学省、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県、名古屋市、人を大切にする経営学会、愛知東邦大学
- ・登壇者：今瀬政司、高見英樹（文部科学省高等教育局企画官（併）高等教育政策室長）、山代 寛（沖縄大学学長）、吹上康代（名古屋市経済局長）、加藤明彦（中小企業家同友会全国協議会副会長、エイベックス(株)会長）、吉岡慎一（市民活動情報センター副代表理事）
- ・地域（社会）課題の解決と大学・学校の生き残りが模索される中、「地域（社会）における大学・学校の存在意義」に焦点を当てて議論した。

◇公益社団法人奈良まちづくりセンター「市民参加による社会的つながりを通じ、遺産の継承を目指そうーアジアで学び合おうー アジア・ヘリテージ・ネットワーク「アジアつながりプロジェクト」」企画・運営

- ・公益財団法人トヨタ財団「アジアの共通課題と相互交流ー学びあいから共感へー」助成事業（2022 国際助成プログラム、800万円、2022～24年）
- ・メンバー（今瀬政司、岩井一郎、上嶋晴久、阪本日出雄、高田大輔、二十軒起夫、長谷川徹、藤野正文、待野太郎、吉田昌）
- ・「アジアつながりプロジェクト報告書 地域資産の発掘と活用 -社会的つながりの再生強化を目指して-」（2024年10月）等
- ・実施スケジュール（*アジア・ヘリテージ・ネットワーク=AHN）
 - ・アジア各国地域の町並み保存市民組織の活動アンケート調査・分析(2023年1～4月)
 - ・中国・泉州とネパール・パタンを対象にモデルプロジェクト実施(2023年3月～2024年8月)
 - ・マレーシア・ペナンへのスタディーツアー(2023年5月26～28日)
 - ・AHNのシンポジウムに向けたオンライン会議開催(2023年7月10日)

- ・AHN のネパールでの国際シンポジウム開催(2023年11月30日～12月3日)
- ・上海のまちづくり組織「ビッグフィッシュ」訪問(2024年5月30日～6月2日)
- ・プロジェクト事業報告会(オンラインミーティング)開催(2024年8月18日)
- ・プロジェクト成果の報告書(日・英・中)とビデオDVD等発行(2024年8月～10月)

◇「総務省施策」の大学等関係者(地域活性学会会員)への周知協力

(総務省地域力創造グループ(地域政策課)からの協力依頼)

- ・総務省「令和7年度概算要求新規事業「大学等と地域が連携して取り組む地域課題解決プロジェクト」等」の周知協力(「地域活性学会第16回研究大会」9/7-8)
- ・総務省「令和6年度補正予算に係る地域力創造グループ施策説明会(12/17)」(「地域活性学会ニュースレターNo.434」12/2)
- ・総務省「地域力創造に関する施策説明会(新規事業「大学等と地域が連携して取り組む地域課題解決プロジェクト:ふるさとミライカレッジ」等、1/30)」(「地域活性学会ニュースレターNo.441」1/21)
- ・総務省「「大学等と地域が連携して取り組む地域課題解決プロジェクト(ふるさとミライカレッジ)のモデル実証事業(国庫補助事業)」の募集開始案内(1/23～3/28)」(「地域活性学会ニュースレターNo.442」1/27)

◇中央教育審議会「答申(案)」パブリックコメント提案

- ・文部科学省中央教育審議会「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について(答申(案))」に対するパブリックコメント提案

◇沖縄映画の評価と宣伝への協力

(映画配給会社の委託先「スターキャット(株)」からの協力依頼)

- ・沖縄映画(公開前)の鑑賞・評価、大学・学校・教育機関・研究サークル等への宣伝協力
- ・『太陽(ティダ)の運命』(制作:琉球放送 TBS テレビ、配給:インターフィルム)
- ・『木の上の軍隊』(製作幹事・配給:ハピネットファントム・スタジオ)

◇「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)」の災害と応援活動の情報」および「ロシアによるウクライナ侵略戦争」の災害と応援活動の情報」の市民活動情報センターホームページ運営協力

- ・今瀬研究室が協力して、ホームページ運営を行った(継続)。

<http://sicnpo.jp/covid19/>

<http://sicnpo.jp/war220224/>

○自己評価

- ・学会活動等では、地域活性学会で「離島振興部会」部会長・事務局長、「東海支部」副支部長、「地域活性学会第16回研究大会実行委員会」副委員長等を担った。他大学では、法政大学地域研究センターで客員研究員、法政大学大学院政策創造研究科で兼任講師、奈良国立大学機構奈良カレッジ連携推進センターでメンター等を担った。
- ・地域連携・社会貢献等では、市民活動情報センター主催・本学後援「第5回教育創生フォーラム-大学等と地域の"連携力"の創生-」企画・運営、奈良まちづくりセンター「アジアつながりプロジェクト(トヨタ財団2022国際助成プログラム)」企画・運営、瀬戸市「瀬戸まちの課題解決応援補助金審査会」審査員等を担った。そうした取組みを通じて一定の社会貢献を果たすことができ

た。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

教育、研究、大学運営、社会貢献の各取組みをリンクさせて、成果を相互に活かし合い、相乗効果を発揮できるように努めた。

VI 総括

- 2019年4月に本学着任以来6年間を経て、本学の大学運営全般に係る仕組みや進め方等のもと、教育活動、研究活動、大学運営、社会貢献それぞれの取組みにおいて、期初の目標・計画は一定程度達成できた。
- 教育・研究・社会貢献の取組み成果の一部は、本学ホームページで報告すると共に、本学今瀬政司研究室ホームページにも随時掲載した。
http://sicnpo.jp/imase-aichi_toho/
- コロナ禍の制約が緩和されてきた中、これまでの経験を活かしながら、次年度も教育・研究・大学運営・社会貢献等で更なる工夫・改善、貢献に努めたい。

以 上